YAME
CREATE

八女のつくりて

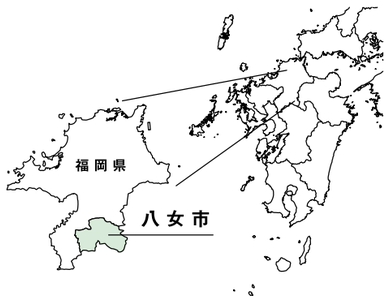
八女のつくりて

つくる、はぐくむ、おもてなし。

茶のくに八女に息づく「おもてなしの心」
一期一会の出会いから、
共に暮らす喜びを分かち合う。
山や川がもたらした風土の恵みのように
それはほっこりと、あたたかい。

八女市の概要

八女市は、平成18（2006）年10月1日に上陽町、同22（2010）年2月1日に黒木町、立花町、矢部村、星野村と合併し、福岡県内で2番目の面積を有する広大な市となり、現在に至っています。福岡県の南部、福岡市から南へ約50kmに位置し、北は久留米市、広川町、うきは市、西は筑後市、みやま市、南は熊本県、東は大分県に接しています。八女丘陵には岩戸山古墳をはじめ多くの古墳があり、仏壇・提灯・手すき和紙などの伝統工芸品や、ブランドとして名高い八女茶、電照菊・イチゴなどの農産物が豊富です。



CONTENTS

YAME CREATE1
郷土（くに）のつくりて
八女、はじまりの地へ（八女津媛伝説）…4
八女茶×つくりて……6
農業×つくりて……8
自然×つくりて……10
技×つくりて……12
風情×つくりて……14
歴史×つくりて……16
文化×つくりて……18

YAME CREATE2
暮らしのつくりて
全国から選ばれる地へ（子育て）……20
アクティブ×つくりて……22
コミュニティ×つくりて……24
再生×つくりて……26
定住×つくりて……28

YAME CREATE3
あたらしい郷土づくり
都市基盤づくり……32
生活・環境づくり……33
産業の振興……34
健康・福祉の充実……35
教育・文化の振興……36
市民参画と健全な行財政運営……37
議会/市長あいさつ……38
八女市資料編……40

1

YAME CREATE

郷(くに)の土のつくりて

かざす手は未来をつくる

太古の時代から続く八女の郷土。豊穣の恵みを生む大地は、矢部川や星野川といった清流からの賜物であり、そこに住む人から人へ、手から手へと守り抜かれ、発展へと導かれてきました。

神秘の宿る風景

何千年もの歴史ある山や川は、この地を生きる八女の人々の暮らしを静かに見守ってきました。いまなお残る祭事からは、その計り知れない歴史の趣を感じずにはいられません。

八女、はじまりの地へ

八女津媛伝説

八女という地名は、五穀豊穣や無病息災をもたらす女神、八女津媛に由来しています。大和朝廷の時代、景行天皇が八女の地に巡幸の折、水沼の県主猿大海が「この地方に女神あり。その名を八女津媛といい、常に山中におる」と奉上したことから、八女の地名が起こったといわれています。矢部の神窟（かみのいわや）という集落にある八女津媛神社の境内には大きな窟があり、そこからしたたり落ちるしずくがせせらぎとなり、やがて肥沃な大地を創造する大河、矢部川となりました。有明海まで注ぐこの雄大な矢部川は、流域全体をうるおし、八女市は古くからその恩恵を受け、お茶に代表される産業や伝統工芸へと文化を紡ぎながら繁栄を遂げてきました。八女という地のはじまりは、多くのものに喜びを与え、幸せな時を紡ぎ、住む人と訪れる人の縁（えにし）を結ぶ源となりました。

八女津媛神社　日本書紀に記されている女神を祀ったと伝えられる神社。八女津媛にまつわる岩穴、八女市の天然記念物に指定されている権現杉などがあります。

1

郷土のつくりて

八女茶×つくりて

そのおいしさや日本的な情緒から、八女流もてなしの真髄ともいえる八女茶。その特徴は、「味や香りはもちろんのこと、色あいやかたちの美しさにいたるまで完璧を求める高級茶」であること。一つ一つの芽を大きくしっかりと育てる栽培法を行ない、ほとんどが二番茶までしか摘みません。

玉露は旨み成分を高めるために、稲わらで約20日間被覆する伝統技法（伝統本玉露）を採用し、全国茶品評会において数々の農林水産大臣賞を獲得。つくりてたちの熟練の技術と情熱の集積こそが八女の茶作りの本領であり、日本一たるゆえんなのです。

八女伝統本玉露は世界へ

地域の農産物やブランドを品質基準とともに国が登録し、知的財産として保護する「地理的表示（GI）保護制度」の第1弾に八女伝統本玉露が登録されました（平成27年12月）。お茶の業界で一番乗りとなったこの成果は、海外展開への足掛かりとなり、ニューヨークを拠点とした商談会などの販促、高級レストランでの採用など、世界進出に向けたブランド戦略を展開しています。

KURASHITE INTERVIEW

世界一の玉露づくり

八女の玉露の特徴は、被覆栽培の際に使う「すまき」という道具を天然の藁で作っており、一芯二葉を手で摘み取るなど手間暇がかかっているところです。1年に1度の収穫に向けて1年間大切に育てています。玉露栽培を始めてからまだ年数は浅いですが、八女の歴史ある玉露づくりを受け継ぎ、次の世代にも引き継いでいけたらという思いで栽培しています。多くの方に、八女のお茶を飲んでいただき、八女の良さを感じていただきたいです。

第71回全国茶品評会「玉露の部」農林水産大臣賞受賞
八女市 玉露生産者 久間 正大さん

八女伝統本玉露に触れる、愉しむ

八女茶を気軽に愉しめるのが星野村にある「茶の文化館」。お茶の歴史や製法を学べる他、抹茶碾き、和菓子作り、おいしいお茶の淹れ方、闘茶などの体験ができます。「茶の文化館」では、八女伝統本玉露はもちろん、お茶づくしのおもてなしが待っています。

広がる地産地消の輪

親子何代にもわたって伝わる郷土料理、採れたての野菜を使った名物料理など、八女の食材はぬくもりある「つくりて」によってこだわりの味となり、発信されています。

1

郷土のつくりて

農業×つくりて

八女市は、県内有数の生産量、種類の多さ、高い品質を誇る農産物の一大産地です。全国ブランドとして確立されている八女茶をはじめ、電照菊等の花き、ブドウ、ナシ等の果樹、イチゴ、ナス等の野菜の主力産品を中心に、地域の特性にあった付加価値の高い様々な農産物が生産されています。近年では、新規就農者の支援に力を入れ、元気な八女の農業の「つくりて」を育んでいます。

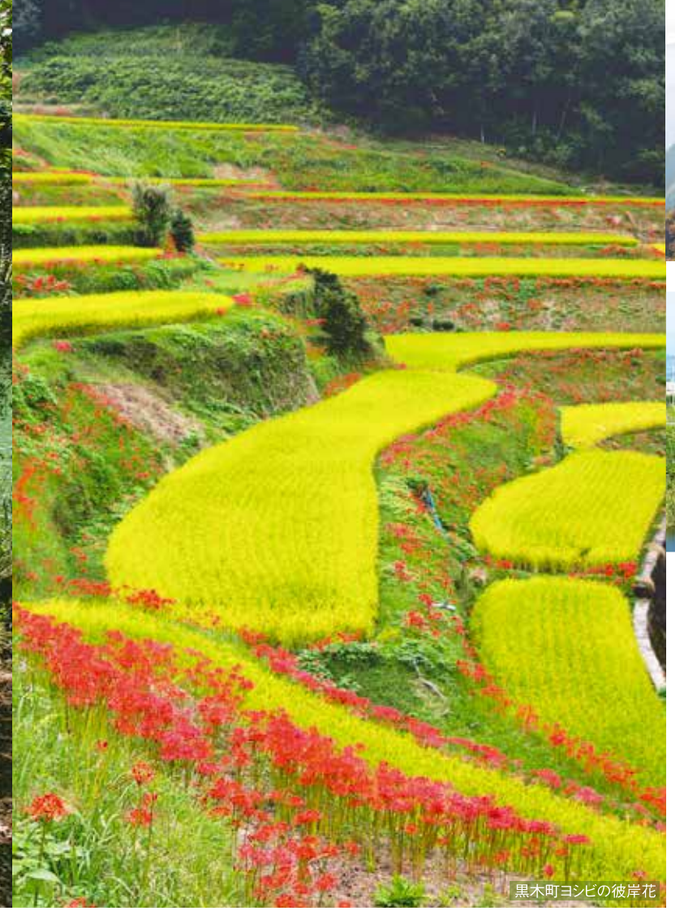
立花ウメウメ団

地元農家の女性たちで結成した「ウメウメ団」は、特産の梅を使ったお菓子作りに取り組んでいます。知恵と工夫で生まれたお菓子は道の駅「たちばな」で販売され、大人気です。

日本一の道の駅「たちばな」

「直売所甲子園2011」で最優秀賞の農林水産大臣賞に選ばれた道の駅「たちばな」。豊富な加工品の他、採れたて新鮮な農産物を「もてなしの心」をもって販売しています。

森林セラピー

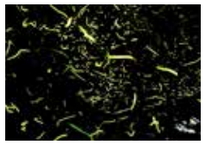

黒木町ヨシビの彼岸花

1

郷土のつくりて

自然×つくりて

まるで、まち全体がセラピーであるかのような…、心と体にやさしい八女の自然。季節ごとに美しい彩りを魅せる花々、深い緑と川の蒼さに癒やされる渓谷美、福岡県の「山どころ」とも呼ばれる山など、四季折々、訪れるごとに魅力を再発見できます。九州オルレ八女コースも設定されており、自然を五感で感じながら、自分のペースでゆっくり楽しむことも。さらに黒木町は、科学的な証拠に裏付けされた森林浴森林セラピー基地の認定を受けており、「森の案内人」が一緒に森を散策します。そんなところにも「おもてなし」の一面が見られる八女の自然です。



御膳岳

矢部川

日本を代表する自然美

九州山地の山間から流れる矢部川水系に位置し、山岳、川面、棚田、茶園、星空、花々などバリエーション豊かでダイナミックな自然美を楽しむことができる八女市。NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加入している星野村をはじめ、各地域で四季折々にじっくりと心に染み入る風景に出会うことができます。

KURASHITE INTERVIEW

守るべき八女の自然

星野村は、棚田や星空など美しい自然環境を誇る村です。平成24年の災害を機に復旧活動を続けていますが、やはり人と自然が融合してできたものは強いですね。ここの石積の棚田は災害時も崩れることはありませんでした。単に元に戻すのではなく、「自然に戻すものは自然に」、「人に戻すものは人に」が重要です。美しい里山の風景には、たくさんの人々の手がかかっています。長い歴史の中で人々が育んできた営みある風景こそが八女の誇るべき自然です。

NPO法人　がんばりよるよ星野村 山口 聖一さん

星のふるさと

星野村の「星の文化館」は、平日でも昼間から望遠鏡を公開している全国でも稀な天文台で、いつでも星を見ることができます。九州最大級の天体望遠鏡や高精細フルカラーの最新プラネタリウム投影機などがあり、子どもから大人まで天体を身近に体感できます。

1

郷土のつくりて

技×つくりて

幾多の恵みをもたらしてきた清流と大地。そこから多彩な伝統工芸が生まれ、引き継がれてきました。八女市は「手工芸の里」と呼ばれ、八女福島仏壇、八女提灯、八女手すき和紙、八女石灯ろうなど、限られた地域に多くの伝統工芸の技が息づいています。昔から和紙は製茶の際の手もみ作業にも使われており、八女茶という一流のブランドを生み出しました。江戸時代、農家の副業として始まり、明治時代の奨励策で基盤を築き、成長を続けてきた伝統産業。それは八女の文化そのものに影響し、今も職人の手によって受け継がれています。

匠の技が光る八女芸術

「つくりて」に紡がれてきた伝統が織りなすもの、それは優雅で美しく、緻密なまでに繊細で、今の世に輝いています。しかし、暮らしが西洋化してきた中、担い手が不足している現実があります。一度すたれてしまうと、取り戻すのに100年かかるといわれる「伝統」。工房を訪ね、手仕事を見つめれば、その尊さを感じずにいられません。

八女伝統工芸館

八女福島仏壇、八女提灯、八女手すき和紙、八女石灯ろうなど、八女が誇る伝統工芸品を一堂に集めた施設。高さ6.5mの大型金仏壇や、ジャンボ提灯など、職人の技を間近に見ることができます。

YAME COLUMN

緻密なアーチと名石工

八女が誇るもう一つの職人文化が石橋で、市内には41基も残っています。明治から大正時代に多く架けられ、道行く人を今もなごませています。全国的にも有名な石工棟梁の橋本勘五郎は、ここ八女の地で通潤橋の兄弟橋「洗玉眼鏡橋」を手がけました。その技術は八女の地に息づき、数多くの石橋が造られました。一連、二連…と、星野川の上流から続く「ひ・ふ・み・よ橋」、たもとでホタルが乱舞する橋など、石橋探訪も趣（おもむき）があります。

1

郷土のつくりて

風情×つくりて

江戸時代に商工業が栄え、八女福島には商家や職人の町家が建ち並びました。その頃の面影が白壁の町並みとして今も残っています。白と黒の色彩やどっしりと構える家並み。時代を経て大切に守られてきた証がここにあります。また八女には、様々な伝統芸能が地域に根付いています。生活文化を継承し、伝えてきた心意気が、祈りや舞、唄の中に宿っています。

八女福島の燈籠人形

江戸時代から続く「からくり人形」の舞台で、三味線やお囃子の音に合わせ、着物姿の人形が華やかに舞い踊ります。福島八幡宮境内で、秋分の日のころ3日間公演されます。
（国指定重要無形民俗文化財）

地域の想いを一つにする祭り

童男山（どうなんざん）ふすべ

不老長寿の薬を求めて秦から渡航してきた徐福の故事に基づくもの。徐福を温めた焚き火の行事は江戸時代から続いています。

風流・はんや舞

麻生神社に伝わる舞楽。晴雨祈願・風止の祭りで、平安時代に生まれた公家舞の名残りといわれています。（福岡県指定無形民俗文化財）

柳島の十七夜（あめがたまつり）

矢部川に身を投げた黒木城主の正室の観音像をあめがた売りが暖めたことに由来。高さ約8mのほっけんぎょに火を灯し無病息災を祈ります。
（八女市指定無形民俗文化財）

雛の里八女ぼんぼりまつり

雛人形のふるさと八女。約100軒の民家や商店が、江戸・明治時代の「箱びな」や、現代のお雛さまを飾り、人々を迎えます。

田代の風流

化粧をした男性が神輿のお供をしながら練り歩く大名行列。最後は八龍神社で風流を奉納します。
（福岡県指定無形民俗文化財）

祇園祭こっぱげ面

氏子や地元の若者が鬼の面をつけて村人を青竹で叩き、無病息災を願い、農作物の害虫被害や梅雨災害など悪霊を払います。

旭座人形芝居

明治5年ごろ、黒木町笠原地区鰐八集落に祝いの座の余興から始まったとされる人形浄瑠璃で、県の無形民俗文化財に指定されています。現在は、旭座人形芝居保存会と黒木小学校人形浄瑠璃クラブの児童が保存と練習に取り組んでいます。
（福岡県指定無形民俗文化財）

受け継がれる伝統

八女市には、人々の暮らしに文化や産業とともに受け継がれてきた町並みが残されています。現在、市民の大切な財産である歴史的町並みや景観を守るため、住民と行政やまちづくり団体が一体となった保存継承の取り組みが進められています。

八女福島の町並み

慶長6年（1601年）の福島城の改修で整備された城下町を起源とし、久留米藩の中でも重要な商家町として繁栄しました。現在でも、江戸時代から明治時代に建築された大壁造の町家をはじめ、土蔵や寺社など多くの建築物が残されています。町並みでは、提灯・仏壇など多様な伝統工芸が生み出され、多くの店舗・工房が営まれています。平成14年、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

黒木の町並み

平安時代末期から戦国時代までこの地を支配した黒木氏の居城・猫尾城の城下町を起源とし、江戸時代以降は山産物を取扱う在郷町として栄えました。現在も明治期以降の町家や酒蔵などが多く残され、矢部川の堰（せき）や廻水路、棚田など、水利にまつわる歴史的風致が多く残されています。平成21年、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

1

郷土のつくりて

歴史×つくりて

岩戸山古墳は、北部九州最大の前方後円墳で磐井の墳墓とされています。磐井は6世紀前半頃に八女地方を治めていた古代豪族で、大陸との独自交流ルートを駆使し栄華を極めていたと思われます。しかし、継体大王（後の天皇）の時代、西暦527年に朝鮮半島との情勢と深く絡みあいながら「磐井の乱」が勃発し、翌528年に息子の「葛子」が「糟屋屯倉」を献上し、乱は終結したと「日本書紀」は伝えています。しかしながら、その後も筑紫君一族は健在だったようで、鶴見山古墳などの大型前方後円墳が次々に築造されています。「磐井の乱」は古代史上最大の内乱と言われますが、磐井は郷土である八女の地をヤマト王権の厳しい負担から守るべく立ち上がった郷土の英雄ではないでしょうか。

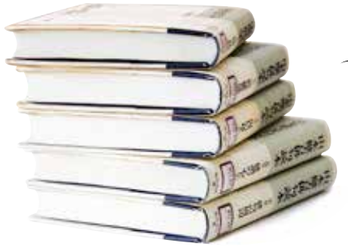
南北朝動乱のドラマ

後醍醐天皇の南朝と、足利尊氏が擁立した光明天皇の北朝に分かれ、正統を争った南北朝時代。その終盤、北部九州は壮絶な戦いの舞台となりました。八女には征西将軍・懐良親王や、南朝最後の親王である後征西将軍・良成親王の御墓所などが残っています。

五条家文書
附八幡大菩薩旗

五条家文書は、南北朝時代征西将軍懐良親王に従って九州に下った五條家の来歴を物語る貴重な史料で、南朝史料として南北朝時代全期間を網羅している史料369通17巻が残されています。毎年、秋分の日に開催される「五條家御旗祭」では、虫干しを兼ねて文書と御旗の一般公開を行なっています。
（国指定重要文化財）

国指定重要文化財「武装石人」八女市岩戸山歴史文化交流館いわいの郷



1

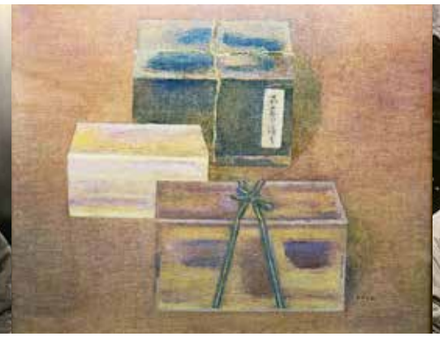
郷土のつくりて

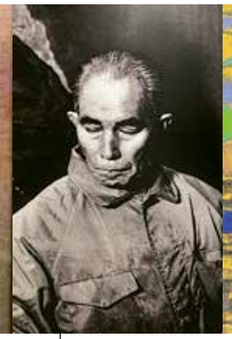
文化×つくりて

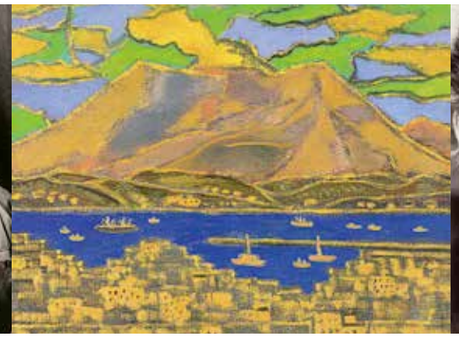
江戸時代、八女福島は久留米から豊後方面に往来する街道の要衝として発展しました。俳句や工芸、燈籠人形など多様な文化が生まれ、華々しく栄えてきた一方、明治時代以降は、多くの文化人を輩出してきたことも八女の魅力です。洋画家、文芸評論家、俳人、作家など分野は多岐にわたっています。市内の随所に文学碑がたてられ、豊かな文化の薫りを感じながら文学散歩が楽しめます。いつの時代も「つくりて」によってコト・モノ・ヒトが磨き上げられた八女市。「観る・知る・学ぶ」が絶えることのないまちです。

文化を受けつぐ

小・中・高生の作文朗読や合唱が行われる、坂本繁二郎の遺徳を偲ぶ式典「帰居祭」をはじめ、市では貴重な文化人の功績とふれあえる機会が数多くあります。田崎廣助美術館では、子どもたちを対象に、自分で彩色を施して作品を仕上げるイベントなどを実施しています。また、世界子ども受樹祭コンクールでは国内外から多くの詩や作文・絵画などの作品が応募されます。







日本経済出版社

坂本 繁二郎

1882ー1969／洋画家。久留米で生まれ、「馬の画家」と呼ばれたほど多くの馬の絵を残しました。八女の自然と風土を愛し、田園風景を「東洋のバルビゾン」と呼んでアトリエを建て、38年間制作に励みました。文化勲章受章。

田崎 廣助

1898ー1984／洋画家。旧八女郡北山村生まれ。坂本繁二郎、青木繁の活躍に触発。パリ留学で西洋の美を学ぶも、帰国後"東洋の心"を悟り、日本の山を題材にした風景画を多く描き、「山岳画家」の地位を確立しました。文化勲章受章。

五木 寛之

1932ー／小説家。旧八女郡辺春村生まれ。早稲田大学露文科中退後、編集者などを経て『蒼ざめた馬を見よ』で直木賞、『青春の門 筑豊篇』他で吉川英治文学賞を受賞。直木賞をはじめ、多くの文学賞の選考委員としても活躍。

安部 龍太郎

1955ー／小説家。黒木町生まれ。1990年『血の日本史』でデビュー。作品に『彷徨える帝』『関ヶ原連判状』『信長燃ゆ』『恋七夜』『道誉と正成』『天下を謀る』『蒼き信長』『姫神』、近著『おんなの城』など多数。「等伯」で直木賞受賞。

杉本 章子

1953ー2015／小説家。八女市酒井田生まれ。1980年『男の軌跡』で作家デビュー。歴史時代小説を多く手がけ、晩年はホスピスにて執筆活動を続けました。「東京新大橋雨中図」で直木賞受賞。

坂本繁二郎資料室

八女市田崎廣助美術館

山本 健吉

石橋 秀野

明治時代の文壇で活躍し、日本近代文学の基礎を確立した石橋忍月や、その三男で文化勲章を受章した文芸評論家・山本健吉、その妻で俳人の石橋秀野と、石橋家にまつわる文学資料館が学びの館（黒木町）と八女市立図書館本館2階にあります。八女はゆかりのある文化人を多数輩出し、昔も今も愛され続けています。

山本健吉資料室